

建て替えを伴う近年の庁舎建築のデザインの特徴と類型化

1250114 島海 拓樹
指導教員 木多 彩子

5.建築計画ー 2.施設計画
庁舎建築 建て替え 移転

1. 研究の背景と目的

1. 1 研究の背景

戦後、日本全国で多くの市制が施行され、新たな市が次々と誕生した。これに伴い、地方自治体の業務の中心として多くの市町村庁舎が建設されたが、現存する市町村庁舎の多くは 1960 年代から 1980 年代の高度経済成長期に建設されている。つまり、建設から 40 年から 60 年ほど経っているため、建物の老朽化や耐震性能不足といった問題が顕在化し、防災拠点としての機能を果たしていない庁舎も見られることが考えられる。さらに、当時の設計基準や庁舎機能が現代のニーズに合わなくなっている点や、職員と利用者にとって効率的な環境を求められるようになってきているということも考えられる。

そんな中、沖縄県の名護市庁舎のように、文化的価値がある建物として保存活用を望む声がある一方で、耐震不足や維持管理費等を懸念する意見があるなど、建て替えや移転に関する議論が硬直しているケースも見られる。

1. 2 研究の目的

以上のような背景から、今後も、多くの新しい庁舎建築が生まれていくと同時に、古いものをどうするかという問題が生まれていく。そんな中、今我々ができることは、既に建て替えられた庁舎建築の事例整理および分析を行い、傾向を把握し、未来のための記録を残すことが非常に重要だと考える。本研究では、建て替えられた庁舎建築のデータを収集し、外観のデザインや空間配置の変更、新たに取り入れたシステムなどを調査・分析することで、現代の庁舎建築の特徴やあり方を明らかにし、今後の庁舎建築の指標を得ることを目的とする。

2. 研究の方法と本研究の位置付け

研究対象の資料は、建築系雑誌「新建築」を利用し、不足する情報は新庁舎建設基本計画などの各市区町村が公開している資料、新聞やニュースなどを活用した。調査範囲の期間について、東日本大震災を契機に、近年の庁舎建築の建て替えをより重要な課題として浮上させたと考えられることから、2010 年以降「新建築」掲載の庁舎建築を対象とし、移転および建て替え理由、コンセプトなどの特徴を抽出、および、整理したのち、機能を図示するなどして分析を行った。建築系雑誌が取り上げる

建物は、当時、理想的な建物として注目された、あるいは流行に即した建物であった可能性が高く、時代を映したものだと考える。公共建築、とりわけ庁舎建築は、建築地の状況、建築主の希望、設計者の考え、それらをもとに設計された図面や建設された建物の写真が公開されることが必要であり、建築系雑誌がその役割を担うであろうことから研究対象としてふさわしいと判断した。

表 1 研究対象事例

No.	掲載年月	竣工年月	建築物の名称	主用途	所在地
1	2010/3/	2008/9/	山梨市庁舎	市役所	山梨県山梨市
2	2010/6/	2010/3/	立川市庁舎	市役所	東京都立川市
3	2011/4/	2009/4/	出雲市庁舎	市役所	鳥根県出雲市
4	2012/4/	2012/3/	大多喜町役場	町役場	千葉県夷隅郡
5	2012/7/	2012/2/	アオーレ長岡	市役所	新潟県長岡市
6	2012/9/	2012/6/	町田市新庁舎	市役所	東京都町田市
7	2014/4/	2013/3/	甲府市庁舎	市役所	山梨県甲府市
8	2014/5/	2014/3/	四万十町本庁舎	町役場	高知県高岡郡四万十町
9	2014/10/	2014/4/	氷見市庁舎	市役所	富山県氷見市
10	2014/11/	2014/8/	住田町役場	町役場	岩手県気仙沼郡住田町
11	2015/5/	2015/3/	としまエコミューズタウン	区役所	東京都豊島区
12	2015/9/	2015/1/	安曇野市庁舎	市役所	長野県安曇野市
13	2015/9/	2015/8/	喜多市新本庁舎	市役所	福島県喜多市
14	2015/11/	2015/2/	南小国町役場	町役場	熊本県阿蘇郡南小国町
15	2015/11/	2015/4/	福島県国見町庁舎	町役場	福島県国見町
16	2015/12/	2015/8/	太子町新庁舎「太子の環」	町役場	兵庫県揖保郡太子町
17	2015/12/	2014/12/	長浜市庁舎	市役所	滋賀県長浜市
18	2016/4/	2015/7/	黒部市庁舎	市役所	富山県黒部市三日市
19	2016/4/	2015/7/	小樽市役所・こもろプラザ	市役所	長野県小樽市
20	2016/4/	2015/3/	北本市庁舎および児童館	市役所	埼玉県北本市
21	2016/4/	2016/3/	下野市庁舎	市役所	栃木県下野市
22	2016/4/	2013/3/	燕市新庁舎	市役所	新潟県燕市
23	2016/4/	2016/2/	茅ヶ崎市役所本庁舎	市役所	神奈川県茅ヶ崎市
24	2017/3/	2015/7/	岐阜町新庁舎	町役場	岐阜県羽島郡
25	2017/5/	2016/11/	新発田市新庁舎	市役所	新潟県新発田市
26	2017/5/	2016/3/	北方町庁舎	町役場	岐阜県本巣郡北方町
27	2017/5/	2017/2/	港南区総合庁舎	区役所	神奈川県横浜港南区
28	2018/3/	2017/8/	南三陸町役場庁舎	町役場	宮城県吉野郡南三陸町
29	2018/5/	2017/11/	長崎県庁舎	県庁	長崎県長崎市
30	2018/7/	2018/3/	富岡市役所	市役所	群馬県富岡市
31	2018/10/	2018/3/	小林市庁舎	市役所	宮崎県小林市
32	2019/1/	2015/11/	長野市第一庁舎	市役所	長野県長野市
33	2019/4/	2018/10/	渋谷区役所	区役所	東京都渋谷区
34	2019/5/	2019/3/	日立市新庁舎	市役所	茨城県日立市
35	2019/5/	2018/11/	当麻町役場	町役場	北海道上川郡当麻町
36	2019/7/	2019/3/	日向市庁舎	市役所	宮崎県日向市
37	2019/7/	2019/1/	山元町役場	町役場	宮城県亘理郡山元町
38	2019/10/	2019/3/	屋久島町庁舎	町役場	鹿児島県熊毛郡屋久島町
39	2020/3/	2019/3/	テラス沼田	市役所	群馬県沼田市
40	2020/4/	2019/8/	長門市本庁舎	市役所	山口県長門市
41	2020/9/	2020/5/	横浜市役所	市役所	神奈川県横浜市
42	2020/12/	2020/7/	市川市役所	市役所	千葉県市川市
43	2021/3/	2019/7/	垂井町役場	町役場	岐阜県不破郡垂井町
44	2021/5/	2020/1/	白鷹町まちづくり複合施設	町役場	山形県西置賜郡白鷹町
45	2021/12/	2020/3/	魚沼市庁舎	市役所	新潟県魚沼市
46	2022/3/	2021/11/	石垣市役所	市役所	沖縄県石垣市
47	2022/3/	2022/7/	大宮区役所・大宮図書館	区役所	埼玉県さいたま市大宮区
48	2022/5/	2021/4/	あわくら会館	村役場	岡山県英田郡西栗倉村
49	2022/6/	2020/10/	柏崎市庁舎	市役所	新潟県柏崎市
50	2023/4/	2022/7/	茨城県大子町新庁舎	町役場	茨城県大子町
51	2023/4/	2023/3/	長崎県庁舎	市役所	長崎県長崎市
52	2023/12/	2023/1/	丹波山村役場	村役場	山梨県北都留郡丹波山村
53	2023/12/	2021/8/	京丹波町役場	町役場	京都府船井郡京丹波町
54	2024/1/	2023/10/	川場BASE	村役場	群馬県利根郡川場
55	2024/1/	2019/9/	青森市新市庁舎	市役所	青森県青森市

Categorization of Recent City Hall Building Designs Involving Reconstruction

建築計画分野における庁舎建築に着目した研究は、船曳、松本ら¹⁾の、市庁舎建築事例における市民空間のあり方を、雑誌掲載文や図面といった資料からデータを収集し、市民空間の傾向と特徴をまとめた研究や、荻原、舩ら²⁾の移転庁舎の建替計画と周辺市街地の特徴から市街地整備方針の示唆を得る研究が行われている。しかし、対象となる庁舎建築を、雑誌「新建築」掲載の庁舎建築から選定し、2010年以降を中心として、市庁舎だけでなく区役所、町役場や村役場を含めた地域の規模に関係なく調査を行う研究は他に見られない。

3. 近年の庁舎建築の事例整理

3. 1 調査対象

調査範囲の期間について、2011年の東日本大震災の発生を契機に、近年の庁舎建築の建て替えをより重要な課題として浮上させたと考えられることから、2010年以降の建築系雑誌「新建築」掲載の市役所や町役場、村役場を含む庁舎建築、全55件を調査対象とした(表1)。今回の調査対象において、「新建築」の掲載年月を基準に、最も古いものは2010年3月の山梨市庁舎、最も新しいものは2024年1月掲載の青森市新市庁舎とした。

3. 2 データシートの作成

本調査の内容である資料整理として、データシートの作成を行った。データシートとして記録することで、対象データの情報整理が容易になり、分析や結果の解釈がスムーズに行える。また、データの出所や処理方法を明示することで、研究の信頼性・再現性の向上が図れるということを目的とした。調査中に分かったこととして、「新建築」の掲載文は、コンセプトの紹介や設計者の考え、配置計画、環境配慮技術の説明を中心に記載されており、建て替えの背景や理由についての記載が少なかったため、各市区町村の公開している資料から情報を収集した。

作成したデータシートの項目の説明は、①建築物概要(名称、竣工年月、掲載年月、所在地、地域人口、延べ床面積、移転及び現地建替等)、②建て替えの背景および理由③特徴(コンセプト・配置計画・環境配慮事項)を記載した。また、新旧庁舎の比較項目として、平面図と外観写真、内観写真を添付し、視覚的にデータを比較が可能になることを目標とした。しかし、新庁舎における平面図と外観写真及び内観写真は、ほとんどが「新建築」に載っているため収集は容易だったが、旧庁舎における情報について、インターネットを用いて調査しても収集が難しく、多くの事例において空欄が生じ、新旧の比較が困難となった。一例を図1に示す。

表2 庁舎機能と移転有無

	移転	現地建替	その他	合計
市役所	16	13	2	31
区役所	2	2	0	4
町役場	6	6	4	16
村役場	2	1	0	3
県庁	1	0	0	1
合計	27	22	6	55

3. 3 庁舎建築事例の概要

調査対象全55件のうち、庁舎機能と移転有無について表2に示す通り、市役所は31件、区役所は4件、町役場は16件、村役場は3件、県庁は1件であった。移転および現地建替に関して、移転庁舎は27件、現地建替庁舎は22件、その他に該当するものは6件であった(表2)。

図2に示す通り55件の調査対象は、過半が市役所で日本全国に分布している。図3に対象地域の人口と延べ床面積を示す。小規模な村から大都市まで含まれており、特に人口について大きなばらつきはあるものの、人口の少ない地域ほど建物の規模がコンパクトにまとまっていると言える。図3の対象地域人口の10万人未満、延べ床面積の16,000m²未満の範囲の相関グラフを見ると、

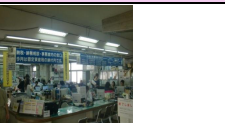
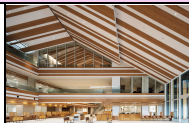
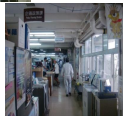
NO.	46	掲載年月	2022/3/
建築物名称	石垣市役所	所在地	沖縄県石垣市
竣工年月	2021/11/	現地建替・移転	移転
延床面積	22,915	延床面積	13922
機能	市役所	駐車台数	431台
建設の背景・理由	外観写真(建て替え前・建て替え後)		
旧石垣空港跡地 老朽化 事務室の狭小化 バリアフリー化の対応不足 耐震力不足 分散化 従来の庁舎内配置による市民サービスの低下 駐車場の狭小化 津波浸水被害区域から高台へ移転 防災拠点としての機能 市民の交流の場としての多様な機能 石垣市のシンボルとしての市役所		 	
特徴(コンセプト・配置計画・環境配慮事項)			
「防災、医療、福祉」の核となるまちづくりの一端として計画 将来のまちへと繋がる 八重山地方の集落形式を継承 赤瓦屋根 屋根は様々なくし風の集まりとして見えるようなデザイン 外壁のメンテナンス用に全ての開口部回りにバルコニーを設けた クワをつくらずどこからでも来庁者をあたかく迎える開かれた構成 ズレを重視する沖縄のアーバンデザイン 平面的、立体的なズレによって赤瓦の集落のリズムとスケールが弱った 高い集落に見られる凹凸感のあるヒップアップ 交差点を中心とする集落として市役所をプランニング ずれながら交差する道 周囲の病院、消防署、防災公園、将来のまちへと繋ぐべく赤瓦の集落 外観に緑化を植樹 アプローチには琉球石灰岩入り黒石平版を使用			
平面図(建て替え前・建て替え後)		内観写真(建て替え前・建て替え後)	
 入手困難  		   	
備考		URL	
地下1階 地上3階 鉄筋コンクリート造 一部、鉄骨造		新建築 2022年3月号 032P https://www.city.ishigaki.okinawa.jp/material/files/group/8/hihon_kousou.pdf	

図1 研究資料として作成したデータシート(一例:石垣市役所)

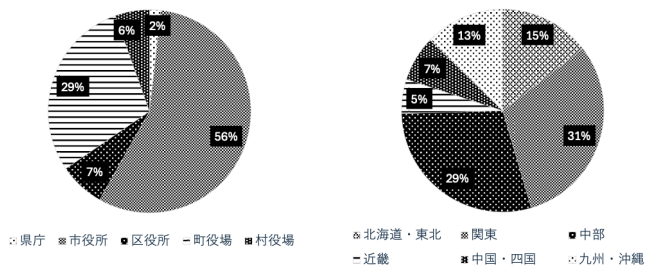


図2 対象の庁舎機能と分布

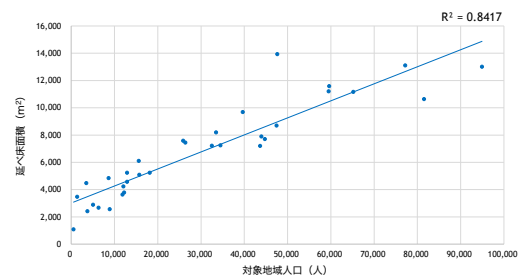


図3 対象地域人口と延べ床面積の相関

庁舎の規模は、対象地域の人口に応じて計画されていることがわかり、人口が減少している地域では、よりコンパクトに計画することで市民サービスの効率化が図ることができ、空間の工夫が必要とされと考えられる。

4. 近年建て替わった庁舎建築のデザインの傾向

表3に調査対象庁舎建築のデータシートにまとめた掲載文や写真などから得られた庁舎建築に見られる特徴を

列挙し、「外観」・「空間構成」・「パッシブデザイン」・「地域性」・「緑環境」・「建て替えの方法」の6つのグループに分け、該当する項目に黒丸を記し、近年の庁舎建築に見られるデザインの傾向の分析を試みた。

「外観」では、大きなガラス面(84%)・陸屋根(73%)であった。「空間構成」では、大空間(80%)・低層(69%)・吹き抜け(67%)であった。「パッシブデザイン」では、大きな

表3 対象の庁舎建築に見られる特徴

対象\特徴項目	外観					空間構成					パッシブ デザイン			地域性				緑環境				建て替え の方法		
	木の 現し	大きな ガラス面	横長の 窓	陸屋根	三角屋根	大空間	吹き抜け	ピロティ	低層	高層	大きな庇や軒下空間	トップライト	太陽光パネル	地域らしさ	周辺環境との調和	象徴性	地元産の木材使用	回遊性	緑化	広場	中庭	屋上庭園	コンバージョン	複合施設化
山梨市役所		●	●	●		●	●		●		●	●	●	●					●	●	●	●		●
立川市役所		●	●	●		●	●		●		●	●	●	●	●				●	●	●	●		
出雲市役所		●	●	●		●	●		●	●	●	●	●	●			●		●	●	●	●		
大多喜町役場		●	●	●		●	●		●		●	●	●	●		●			●	●	●	●		
アオーレ長岡	●	●	●	●		●	●		●		●	●	●	●			●	●	●	●	●	●		●
町田市新庁舎		●	●	●		●	●	●	●		●	●	●	●	●				●	●	●	●		●
甲府市庁舎		●	●	●		●	●		●		●	●	●	●		●			●	●	●	●		
四万十町本庁舎	●	●			●	●	●		●		●	●	●	●	●			●	●	●	●	●		
水見市庁舎				●		●	●		●		●	●	●	●	●			●	●	●	●	●	●	
住田町役場	●				●	●	●	●	●		●	●	●	●		●	●		●	●	●	●		
としまエコミューゼタウン	●				●	●	●		●		●	●	●	●		●	●		●	●	●	●		●
安曇野市庁舎	●			●		●	●		●		●	●	●	●		●	●		●	●	●	●		
喜多市新本庁舎				●		●	●		●		●	●	●	●	●			●	●	●	●	●		
南小国町役場	●				●	●	●		●		●	●	●	●		●	●	●	●	●	●	●		
福島県国見町庁舎		●	●	●		●	●		●		●	●	●	●	●			●	●	●	●	●		
太子町新庁舎		●	●	●		●	●		●		●	●	●	●	●			●	●	●	●	●		●
長浜市庁舎	●	●	●	●		●	●		●	●	●	●	●	●	●			●	●	●	●	●	●	
黒部市庁舎			●	●		●	●	●	●		●	●	●	●	●			●	●	●	●	●	●	
小諸市役所		●	●	●		●	●		●		●	●	●	●	●			●	●	●	●	●	●	
北本市庁舎		●	●	●		●	●	●	●		●	●	●	●	●			●	●	●	●	●	●	
下野市庁舎		●	●	●		●	●		●		●	●	●	●	●		●	●	●	●	●	●	●	
蕨市新庁舎		●	●	●		●	●		●		●	●	●	●	●		●	●	●	●	●	●	●	
茅ヶ崎市役所本庁舎		●	●	●		●	●		●	●	●	●	●	●	●			●	●	●	●	●	●	
岐南町新庁舎		●	●	●	●	●	●		●		●	●	●	●	●			●	●	●	●	●	●	
新築田市新庁舎		●	●	●		●	●	●	●		●	●	●	●	●			●	●	●	●	●	●	
北方町庁舎		●	●		●	●	●		●		●	●	●	●	●			●	●	●	●	●	●	
港南区総合庁舎		●	●	●		●	●		●		●	●	●	●	●			●	●	●	●	●	●	
南三陸町役場庁舎	●	●	●	●		●	●		●		●	●	●	●	●		●	●	●	●	●	●	●	
長崎県庁舎		●	●	●		●	●		●	●	●	●	●	●	●			●	●	●	●	●	●	
富岡市役所	●	●	●	●	●	●	●		●		●	●	●	●	●		●	●	●	●	●	●	●	
小林市庁舎	●	●	●	●		●	●		●		●	●	●	●	●		●	●	●	●	●	●	●	
長野市第一庁舎		●	●	●		●	●		●	●	●	●	●	●	●			●	●	●	●	●	●	
渋谷区役所		●	●	●		●	●		●		●	●	●	●	●			●	●	●	●	●	●	
日立市新庁舎		●	●	●		●	●		●	●	●	●	●	●	●			●	●	●	●	●	●	
当麻町役場	●	●	●	●		●	●		●		●	●	●	●	●		●	●	●	●	●	●	●	
日向市庁舎	●	●	●	●		●	●		●		●	●	●	●	●		●	●	●	●	●	●	●	
山元町役場		●	●	●		●	●	●	●		●	●	●	●	●		●	●	●	●	●	●	●	
屋久島町庁舎	●	●	●		●	●	●		●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
テラス沼田		●	●	●		●	●		●	●	●	●	●	●	●			●	●	●	●	●	●	
長門市本庁舎	●	●	●	●		●	●		●		●	●	●	●	●			●	●	●	●	●	●	
横浜市役所		●	●	●		●	●		●	●	●	●	●	●	●	●		●	●	●	●	●	●	
市川市役所		●	●	●	●	●	●		●		●	●	●	●	●			●	●	●	●	●	●	
垂井町役場		●	●	●		●	●		●		●	●	●	●	●			●	●	●	●	●	●	
白鷹町まちづくり複合施設	●	●	●	●	●	●	●		●		●	●	●	●	●		●	●	●	●	●	●	●	
魚沼市庁舎	●	●	●	●		●	●	●	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
石垣市役所	●	●	●	●	●	●	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
大宮区役所		●	●	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●			●	●	●	●	●	●	
あわくら会館	●	●	●	●	●	●	●		●		●	●	●	●	●		●	●	●	●	●	●	●	
柏崎市庁舎		●	●	●		●	●	●	●		●	●	●	●	●		●	●	●	●	●	●	●	
茨城県大子町新庁舎	●	●	●		●	●	●		●		●	●	●	●	●		●	●	●	●	●	●	●	
長崎市庁舎	●	●		●		●	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
丹羽山村役場	●	●	●		●	●	●		●		●	●	●	●	●		●	●	●	●	●	●	●	
京丹波町役場	●	●	●		●	●	●		●		●	●	●	●	●		●	●	●	●	●	●	●	
川場BASE	●	●	●		●	●	●	●	●		●	●	●	●	●		●	●	●	●	●	●	●	
青森市新市役所		●	●	●		●	●	●	●		●	●	●	●	●		●	●	●	●	●	●	●	

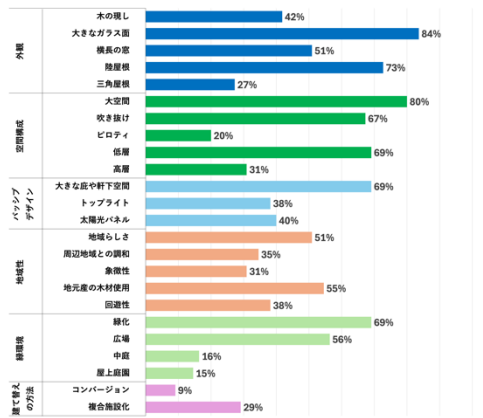


図4 特徴項目の割合

底や軒下空間(69%)であった。「地域性」では、地元産の木材利用(55%)・地域らしさ(51%)であった。「緑環境」では、緑化(69%)・広場(56%)が多く見られた(図4)。大きなガラス面から、行政の透明性を視覚的に示し、閉鎖的な雰囲気を軽減するほか、自然光の活用やシンプルで洗練された外観を実現できることが考えられる。大空間・吹き抜けから、開放的な空間が庁舎の公共性や住民に対する開かれた姿勢を象徴し、自然光や通風を効果的に活用できるほか、将来の利用変更にも柔軟に対応可能であることが考えられる。緑化・広場から、共にグリーンビルディング化を示した。

「建て替えの方法」の、コンバージョン(9%)と複合施設化(29%)から、限られた土地を有効活用し、複数の機能を集約することで、住民の利便性向上や周辺地域の活性化につながり、建設や運営コストの削減ができることから、近年の建て替え庁舎において重要な要素だと考えられる。

5. デザインの類型化

表3を用いてクラスター分析を行った。クラスター分析にはウォード法を用いて計算を行い、結果を図5のデンドログラムに示す。165付近で切ることで3つのカテゴリーに分けた。

カテゴリーAでは、幅広い規模の地域の庁舎が該当し、大きなガラス面、大きな底や軒下空間といった他二つの型にも通ずる最も汎用的なデザインであり、これをインタースペース型とする。

カテゴリーBでは、地域人口が比較的少なく、コンパクトな町役場や村役場が多数該当し、三角屋根の低層で、地元産の木材を利用した、地域と自然に寄り添った型の庁舎が多く見られ、これを地域自然受容型とする。

カテゴリーCでは、地域人口が比較的多い都市部の市役所や区役所が多数該当し、高層で複合施設化されている都市型の庁舎が多く見られ、これを機能的都市型とする。

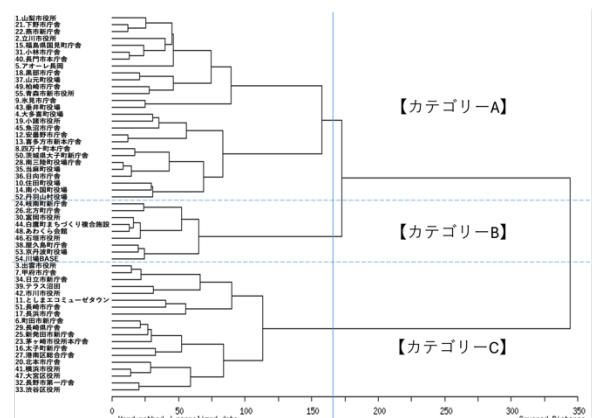


図5 クラスター分析で得られたデンドログラム

6. まとめ

本研究では現代の庁舎建築の特徴やあり方を明らかにし、今後の庁舎建築の指標を得ることを目的とした。

具体的には、2010年3月から2024年1月の間に建築系雑誌「新建築」に掲載された全ての庁舎建築を対象とした。その結果、コンセプト文から抽出される特徴は、「外観」・「空間構成」・「パッシブデザイン」・「地域性」・「緑環境」・「建て替えの方法」の6つのグループに分けられた。それぞれ多く見られた特徴として、「外観」では大きなガラス面・陸屋根、「空間構成」では大空間・低層・吹き抜け、「パッシブデザイン」では大きな底や軒下空間、「地域性」では地元産の木材使用・地域らしさ、「緑環境」では緑化・広場であった。

また、デザインをクラスター分析により類型化すると、インタースペース型、地域自然受容型、機能的都市型の3つのカテゴリーに分類された。

以上より、庁舎建築デザインの動向は、何らかのインタースペースがデザインに組み込まれ、地方の中小規模な庁舎では、低層でありながらも大空間をもち、積極的に地元産の木材の使用した木の現しが特徴的な庁舎が見られ、大都市では、グリーンビルディング化、複合化による地域活性化とコスト削減に寄与する計画が継続されると考察する。

参考文献

- 1) 船曳悦子, 松本直司, 田川哲郎, 櫻木耕史: 建築系雑誌にみる市庁舎建築事例における市民空間の特徴 市庁舎建築における市民空間のあり方に関する研究 その1 日本建築学会計画系論文集, 第632号, p.2067-2073, 2008.10
- 2) 萩原綾, 鶴心治, 小林剛士, 白石レイ: 移転庁舎の市街地整備方針との関連に関する一考察 日本建築学会技術報告集, 第29巻 第73号, p.1513-1518, 2023.10

※ 学生 高知工科大学 システム工学群 建築・都市デザイン専攻 Kochi Univ. of Tech, Dep. of Arch. and Urban design

※※ 教授 高知工科大学 システム工学群 建築・都市デザイン専攻 Prof. (Ph.D) Kochi Univ. of Tech, Dep. of Arch. and Urban design